

令和3年度 奈良県立奈良高等学校 学校評価計画表

学校運営計画			総合評価
教育目標	本校の教育の目標は、日本国憲法、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本理念に基づき、人間尊重を基盤として、一人一人の人間を大切に、その人がもっている能力、適性を最大限に伸ばし、未来の社会に期待される人間を育成することにある。そのために、豊かな人間性をもち、絶えず知性を磨き、新しい文化の創造に努め、正しい価値観と倫理観をもって自主的な判断と行動のできる人間の育成を図る。		
教育方針	天平文化を象徴する校章『宝相華』を体し、新しい文化の創造に励み、民主的な社会の形成に努めるたくましい人間の育成を期し、本校教育は次の方針に基づいて推進する。 1 志操と思想を研ぎ、創造的な知性と技能を育て、豊かな個性の伸張を図る。 2 真実の自由と責任を自覚するとともに、敬愛と信頼に満ちた人間関係を醸成する。 3 積極的に文化・体育活動に参加し、明るく豊かで活力のある生活態度を養う。 4 人間尊重の精神を基盤として、人間としての在り方、生き方を自覚し、自らの行動を律する主体性を育てる。		
昨年度の成果と課題	今年度重点目標	具体的目標	
昨年度は、新型コロナウイルス感染拡大のため、年度当初の臨時休業に始まり分散登校及び時差登校の措置を講じるなど、前例のない対応を迫られることの連続であった。しかし、年間授業計画に基づいて授業動画及び学習プリントの作成に取り組んだことにより、授業と予習・復習の関連性が組織的に整理され、系統的な学習の流れを構築することができた。また、電子黒板が設置されたことにより、授業の効率化が加速され、臨時休業での授業の遅れを取り戻すとともに、授業方法に広がりがあった。引き続き、学校内外の感染防止に努めるとともに、熱中症の予防に向けた取組を継続する。そして、移転業務を円滑に進める一方で、法蓮での教育活動の充実とこれまでの地域に対する感謝の気持ちを生徒の中に醸成することを目指す。	○生徒が主体的に物事を考え、判断し、行動しようとする姿勢を養う。 ○生徒の確かな学力と、社会の一員としての豊かな知性・人間性を育む。 ○探究的な授業を実践するため、授業改善に取り組む。 ○SSHの「先導的改革型」の申請に向けた取組を推進するとともにシンガポール研修、イギリス研修に代わるグローバルリーダー育成の教育プログラムを進める。 ○常に生徒の安全確保に努めるとともに、生命を大切に、健康を保持増進する能力や態度を養う。 ○学習と部活動等との両立を推進する。 ○これまで本校が発展してきた歴史に思いを巡らせる中で、本校を見守ってくれた地域への感謝の気持ちを育てるとともに、本校の伝統の継承と新たな奈良高校の創造に向けた意欲・態度を育成する。	◇本校独自の単位制を充実させるとともに、個々の授業改善に取り組む。 ◇本年度の大学結果の検証に基づき、生徒の進路実現に向けた戦略を検討する。 ◇第4期5年目のSSH事業を企画・運営し、関係機関と連携しながら事業を推進するとともに、「先導的改革型」申請に取り組む。 ◇社会のルールやマナー等の規範意識の醸成に努める。 ◇部活動や各種コンクールへの参加を推進する。 ◇読書の啓発に努めるとともに、文化的な行事の充実を図る。 ◇学校安全教育、防災教育に積極的に取り組む。 ◇ボランティア活動を推進し、地域での社会参加活動を推進する。 ◇教育相談体制を充実させる。 ◇熱中症予防及び新型コロナウイルス感染防止に向けた校内外の対策を充実させる。 ◇グローバルリーダーの育成をめざし、オンライン等を活用した新たな取り組みを推進する。 ◇ICT機器を活用した授業づくりを推進する。 ◇部活動推進計画に基づいて部活動を推進する。 ◇移転に向けた理解啓発を充実させる。	

評価項目	具体的目標	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題	改善方策等	
教務部	教務	昨年度編成した教育課程について、さらに検討を進めていく。令和4年度からの新設科目や再編科目の内容を確認するとともに、主体的に学習に取り組める態度や知識・技能を幅広く活用し、探究する能力を育む教育課程に修正していく。	新教育課程における新設科目や再編科目の情報を教科会議や教育課程委員会等を通じて共有していく。さらにキャリア・マネジメント部や研究推進部等の各分掌とも連携して、本校の教育目標や教育方針、新入試制度やSSH指定研究の基本方針・内容についての共通理解を図る。このような取組の中で、本校で設置予定の各教科・科目や学校設定科目の内容を吟味し、各科目の設置学年や単位数、さらに実践方法を再検討し、より良い教育課程に修正していく。			
		「主体的・対話的で深い学び」を重視し、生徒の学びがより一層進展していくための指導方法の工夫や授業改善を目指す。また、それに伴う、観点別評価の取組やICT機器の積極的な利用方法についても研修を深めていく。	生徒の主体的な学びをより進めていくために、教員それぞれの授業力の向上と授業改善を図る。具体的には、昨年度コロナ禍で実施できなかった教科の枠を超えた授業交流や各教科での研究授業について、対策を講じて進めていく。その中でICT機器の利用方法や、観点別学習状況評価方法についても研修を行い、具体的な取組を進めていく。			

評価項目	具体的目標	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題	改善方策等
キャリア・マネジメント部	生徒自身の適性把握と、能力伸長をサポートするための方策を企画・実施し、適切な指導と情報提供を計画的・効果的にを行いながら、個に応じた進路指導を行う。	様々な講習、外部講師や卒業生による講演・講話、キャリアホームルーム等の円滑な企画・実施により生徒の意識を高め、模擬試験結果等の効果的分析と生徒への適切なフィードバック、進路相談への細やかな対応により、生徒の自己理解と進路実現への取り組みを支援する。大学探訪等の外部訪問による事業が実施困難な場合には代替事業を実施する。			
	様々な情報の収集・分析・検討、分析結果の教員集団への提供と共有、教員の研修機会の充実を図る。	初年度大学入学共通テストに関する細かな分析、様々な模擬試験等から得られる学力・学習の状況と課題分析等を迅速・細やかに行い、研修機会を設けて課題・情報を共有する。対面・オンラインによる教員の外部研修の案内を充実させ、参加を促進する。			

評価項目	具体的目標	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題	改善方策等
生徒指導部	生徒個々の規範意識を高め、基本的な生活習慣の確立を図る。	不注意による遅刻を防止するため、学年・生徒指導部の連携を強め、継続的な指導を行って年間の総遅刻数を減少させる。 また、登下校時における感染症対策を含めたマナーを徹底させる。			
	生徒の問題行動を未然に防ぐとともに、発生時の対応・指導を適切に行う。	担任・副担任・学年主任と連携をとり小さな変化を見逃さないように注意する。 また、薬物の怖さやSNSの適切な利用方法を理解させるために、講演会等をおこなう。			
評価項目	具体的目標	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題	改善方策等
生徒会支援部	自主創造の精神に基づき、生徒一人一人が学校活動の主役となり、生き生きとした生活が送れるようにする。	生徒会(総務委員会)と各種委員会との連携を密にし、各行事における役割を明確にするとともに、活動の活性化を図る。 学校生活における規範意識を高めるための活動を模索し、実行に移す。 活発な部活動を展開し、健康で心豊かな生徒の育成を図る。			
	地域や他校と連携したボランティア活動の充実を図る。	昨年度に続き、近隣の学校や周辺地域と連携したボランティア活動を計画し、発展させる。			
評価項目	具体的目標	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題	改善方策等
人権教育部	生徒の実態の把握に努めるとともに、グループワークなどを通じて生徒の主体的な活動を促す。	ワークシートの活用等を取り入れ、講義だけにならないようなHRの実施を図るとともに、従来の題材に加えて、昨今の情勢を踏まえた新しいテーマ・教材の提供にも努める。			
	教職員・保護者に各種研修会、学習会等への積極的な参加を呼びかける。	昨年度に比べて校内・校外の研修会や学習会が実施される機会が増えることが予想されるので、多くの教職員・保護者が参加できるように、情報の収集・伝達に努める。			
評価項目	具体的目標	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題	改善方策等
教育相談部	生徒がスムーズに学校生活を送ることができるよう、学年・学校全体で協力して生徒を見守り、寄り添えるようにする。	生徒への対応、支援を迅速かつ的確に行えるように担当教員・学年と教育相談部が連携する。特に、不登校傾向を早期に把握し、予防的対応ができるように、日頃から欠席や遅刻の状況を確認し、教員同士の連絡をこまめにする。			
	教育相談の専門機関を積極的に活用して、生徒支援と教職員のカウンセリングマインドの向上に活かす。	スクールカウンセラーや教育相談アドバイザーへの連携を密にして、相談活動をして適切な助言を仰ぐ。また職員のスキルアップのための指導助言をいただく。			
評価項目	具体的目標	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題	改善方策等
文化広報部	総務	育友会と同窓会の活動を支援し、より充実した活動が行われるよう的確に計画を立て遂行する。	校内外の各部署との連携を緊密にとり、育友会・同窓会の諸活動を活発に行う。また、講演会や見学会をはじめ学校通信やSEITAN、同窓会報「宝相華」等を用いて広報の充実にも努める。		
	文化図書	知的好奇心を喚起するような文化講座を計画し実行する。 生徒たちが自分の好きな本について語るビブリオバトル、及びドラマ仕立ての朗読会・Voice Bookを実施する。	外部講師を招くことも視野に入れ、他分野横断、学際的な講座を実施する。 文化講座、探究系授業、「ゲーテの会」などとも関連させながら、生徒の主体的な活動の機会を設け、自由な発表の場を作り上げる。		
評価項目	具体的目標	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題	改善方策等
保健体育部	生徒が健康診断や体力テスト等の結果をふまえて、自主的に健康を保持増進できるよう指導を充実させる。	健康診断の事後指導を充実させ、疾病や発育・発達に関する課題の早期発見や対応を行う。特に、経過観察が必要な生徒の体重測定や個別指導を定期的に行うとともに教育相談委員会とも連携し、個人カードを活用しながら心身に配慮を要する生徒をより注意深く見守る。また、「保健だより」や掲示物等の内容を工夫する。			
	新型コロナウイルス感染者0および引き続き熱中症0を達成する。	新型コロナウイルス感染拡大予防のために実施可能な全ての取組を実践するとともに熱中症予防計画を見直しながら学校全体で取組みを進めていく。			

評価項目	具体的目標	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題	改善方策等
環境整備部	教師と生徒が共に協力し校舎内外の環境美化に努める。	総務委員や生活環境委員を中心に生徒たちと連携をとりながら環境美化活動への積極的な参加ができるよう働きかける。			
	防災意識の向上に努める。	これまでの避難訓練の課題を踏まえながら「地震の見張り番」を活用したシェイクアウト・火災・避難訓練を実施する。			
	校務系端末、教育系端末の安定したネットワーク運営を行う。また、ホームページによる広報活動を各教科・分掌で適切に行えるよう環境を整備する。	県と連携をとりながら、移転によるインターネットインフラの引継・整備を適切に行い、移転後に各端末が安定して利用できるように努める。また、ホームページの運営においても、更新作業が迅速かつ活発に行われるよう、各担当部署との連携を密にする。			
評価項目	具体的目標	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題	改善方策等
研究推進部	SSH推進	次期申請を見据え、各学年で展開する探究的な授業の改善と検証を進める。	SSH関連科目のさらなる充実に向け、指導方法の体系化・高度化を図る。また、探究活動の有用性を確認すると共に、課題を把握し、よりよい介入方法の検討に繋げるため、年度を通じた生徒向け意識調査・分析を実施する。		
	SSH推進	次期申請(先導的改革型)に向けた手続きを完了させる。	県教委とも連携しながら、SSH次期申請プロジェクト会議メンバーで申請の方向性を固め、申請書の作成・提出を所定期日までに実施する。		
グローバル推進	広い視野に立ち、異なる文化、価値観を乗り越えて関係を構築するためのコミュニケーション能力と積極性及び協調性を有するグローバルリーダーの育成を目指す。	文理融合型グローバル探究プログラムを企画・実施する。「トビタテ留学！JAPAN」等、海外留学に関する情報を提供し、海外留学の促進を図る。要請があれば、海外交流団体を受け入れ、本校生徒との交流を図る。			
評価項目	具体的目標	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題	改善方策等
第1学年	基本的な生活習慣を確立させ、高校生としての自覚をもたせる。	生徒が自らの役割を自覚し、集団の一人として責任を持って、高校生として自律した行動をとれるようにさせる。			
		理由のない遅刻や欠席をなくし、基本的な生活習慣を確立させる。遅刻・欠席の理由によっては、スクールカウンセラーと連携する。			
		自ら進んで行う挨拶を習慣づけ、明るい中にもけじめのある落ち着いた雰囲気のある学習環境を作らせる。			
	将来の目標を設定し、その実現に向けて、授業を大切にしながら学力の一層の向上を目指す。	授業中心の学習(予習、授業、復習のサイクル)を習慣化し、自分の学習スタイルを確立させる。定期考査や模擬試験等を積極的に活用し、学習方法を点検させる。			
		キャリア・マネジメント部と連携し、生徒が将来の目標を見据えながら主体的に学習に取り組めるよう、学年集会・キャリア学習HRを計画・展開する。			
生徒の学校生活をより充実したものにするべく、各家庭との協力関係を構築する。	懇談等の機会を活用し、日常の生徒の様子についての情報を保護者と共有する。また、生徒の様子の変化に気づいたときは、早い段階で保護者と連絡を取り合い、各分掌、スクールカウンセラーとも連携しながら適切な指導を行う。				
学年団として意思の疎通を図り、まとまりのある教員集団を形成する。	学年会議だけでなく、日頃からお互いに報告・相談・連絡を密にする。また、教科、分掌、他学年の組織とも連携し、情報を共有する。				

第2学年	基本的な生活習慣を身につけ、はじめのある生活態度を身につけさせる。	理由のない欠席や遅刻をなくし、基本的な生活習慣を確立させる。欠席や遅刻の理由によっては、教育相談部やスクールカウンセラーと連携する。感染症防止のためのマナーやスマートフォン利用のマナーを徹底させる。授業のみならず学校行事における5分前行動を励行させる。			
	将来の目標を具体的に設定させ、持てる能力を発揮できる進路選択をさせる。	機会があるごとに個人面談を行い、適切な進路選択ができるよう指導する。キャリア部と連携をとり、適切な時期に効果的なホームルーム行事を計画・実行する。			
	情報を共有し、学年運営を円滑にする。	学年会議だけでなく、日頃からお互いに報告・連絡・相談を密にし、必要があれば教科・分掌、委員会とも連携して、生徒の情報を共有する。また、学校行事や生徒指導においては、他学年と協力して、その取り組みを遂行する。			
第3学年	主体的な進路の実現	個別面談を通じて進路実現への意識をしっかりと持たせる。キャリアマネジメント部と連携をとり、適切な時期に効果的な進路行事を計画・実行する。			
	適切な連携による教育相談、生徒指導	生徒に関わる情報を共有し、必要があれば教科、分掌、委員会、スクールカウンセラーと連携する。生徒の変化に気づいた場合は、迅速に保護者と連絡を取り対応する。			
	基本的な生活習慣の醸成	怠惰による遅刻は、一定の基準を設けて厳しく指導する。法蓮の地で学ぶことが後1年になった現在、「地域のなかの学校」の意識をHRを通じて提起し、登下校のマナーの向上につなげていく。			